

【題名】 税と僕

【学校名・学年】 北広島市立東部中学校三年

【氏名】 伊藤 颯太

先日、あるニュースが僕の目に留まりました。サッカーの世界的スター選手であるクリスティアノ・ロナウド選手が脱税容疑で起訴され、約二十六億円の罰金と禁錮二年の刑を科されたというものでした。ロナウド選手はこれを受け入れたため、減額された罰金約二十五億円を払い、刑務所には入らないようですが、僕はこの報道に驚きました。と同時に、もし税金を払わなかったらどうなるのか、税金は身近な社会の中でどんな役割をしているのか気になりました。

翌日、僕は母に、

「税金はどんなところで自分と関わっているの。」

と尋ねました。すると、親は、

「颯太だって消費税を払っているのだから、立派な納税者なんだよ。」

と教えてくれました。確かにこれまで消費税を払ってきたけれど、自分が『納税』しているという意識がなかったの、これを聞いて自分も社会のために少しは貢献しているのかなと思いました。さらに、

「学校に行くためのお金や、颯太のお兄ちゃんの手術の費用が税金によって賄われたから、なくてはならないものであり、感謝している。」と言っていました。僕の兄は、小さい頃に二つの手術を受けたそうです。どちらとも手術代などが十万円近くかかり、そう簡単に払えないものでした。しかし、その費用のほとんどを国に育成医療というもので負担してもらい、兄は元気に生活しています。育成医療の費用の元手は、主に税金です。もし税金がなかったら、兄のような人達はどうなるのでしょうか。手術を受ければ治るのに、お金がないだけで治すことができないのです。他にも、道路工事や年金、生活保護などの費用はどうなってしまうのでしょうか。どれも、誰もが安心して幸福な生活を送るためには必要不可欠なのです。このように、税金が大きな役割を果たしていることがわかりました。

税金は、みんながお金を出し合って使われるものです。僕は、税金の使い道に日本国民がもっと関心を持つべきだと思います。その使い方を決める場所が政治です。しかし、現代社会では、政治への関心が低く、選挙の投票率も低くなっています。自分たちの用意したお金なのに、その方針を決めることに参加しなくていいのでしょうか。税金は自分たちの未来を決めると言っても過言ではないのです。